

一月二二日

朝屋上菜園に台所のゴミ埋める。三ヶ所をかなり深く掘って埋めた。浅いとすぐカラスに掘り返されてしまうのだ。カロラインジャスミンとエリカの小株は何とかついただろう。ほんのわづかだが所々で緑の芽が出ようとしているのが感じられる。今日から0エネルギーシェルターの設計を開始する。廃材もたまつたし条件がととのつたから。世田谷村の一階部分をその実験の場としよう。午後学校へ。陸海の修論の日本語を直す。中国人らしい骨太な論文だが日本語の修正に手間取った。しかし中国人留学生を育てるにはこれ位の事はしないとね。佐藤健講議のため来校。二月一日にホテルオークラで竜谷大学長と昼飯を一緒にする事になる。いよいよ西域行きは逃れられぬ感あり。チョツと集中して勉強しておかぬと佐藤健に赤恥かかせることになるな。野村等とコンバージョン打合わせ。チョツと面白くなってきた。やっぱり、リアルな部分がないと乗れないんだよね、まだ。

一月二三日

朝渡辺夫妻来地下室。二月下旬に渡辺さん、友人たちと床の板張を始めようという事になる。子供たちの住宅づくり参加は三月になってから。イヨイヨ本格的なセルフヘルプ方式にとりかかる。本当に良いクライアントに巡り合ったが、甘えてはいけない。やさしい人は本当は恐いのだ。午後星の子愛児園現場へ。屋上にパ

イプアーチ型のドームが乗っていて、内部に入ってみる。三階ドーム内のプランを変更しなければならぬ。変更プランの概要を示して帰る。やはり現場に身体をひたすのは大事だ。模型ではわからぬものがある。しかし大きいインテリアの模型でスタディしていればこんな乱暴をしなくてもすんだ。良く知ったパイプアーチという事で油断した。愛児園内部を歩き大体空間を把握した。手を入れ込むところと手つかずにする所を方法的に分けないといけない。

一月二四日

朝大学へ。学内打合わせ多数。

夕方東大出版会打合わせで東大へ。原稿書けよと鈴木博之に叱られた。全十巻の大仕事で大方の原稿は上がってきているようだ。堂々たるもんだな。鈴木博之の仕事としても大きなものとして残るだろう。ひとしきりいつまでに書くのさ、もうお払い箱ヨと叱られた後で出版会長谷川氏と三人で会食。東大近くの金魚屋なる面白いレストラン。江戸時代からの金魚屋さんで、往時は金魚問屋の元締めであつたらしい。昔金魚を泳がせていた大きな水槽が床になっていて、そこで料理をいただく趣向である。三人でプカプカ浮いて飯喰って面白かった。今年始めての赤ワインであつた。気が付けば年を経る毎に飯を喰い、酒を飲む相手がいなくなっている。だんだんシンプルになってゆくんだな交友関係が。宮沢賢治殺人事件という本が面白いぞと教えられた。ある種の偶像解体のものらしいが、鈴木好みの本なのだろう。年とつたなあとお互い言っではいるが、彼は年取ってないなと痛感する。私の祖父の石山福治は何かの縁で外務省の研修所で無駄飯喰はせて貰っていたらしい。要するにすぐには役に立たぬ学問らしきものを勝手に

やっていた。そして漢和辞典を作った。その外務省研修所は東大の内田祥三先生設計のもので家内が偶然に手伝っているその保存運動の後楯が鈴木博之だ。私が生まれた所はその研修所の近く文京区小日向で、聞くところでは鈴木もこの辺りで幼少時を送っていたらしい。私は焼け出されてすぐに岡山県へ疎開したのだが、焼け出されて田舎へ行ってなかったら、鈴木と同じ小学校へ行っていただろうと思うとゾツとする。絶対大ゲンカしていたに決まっているのだ。鈴木は多分ずっと級長で私は常に悪ガキ率いた對抗馬だったろう。私の方が年長だから学年は違っていたが、何故か級長戦は学年違いでももつれ込んで、私は常に三票差くらいで敗けていたであろう。アメ玉で買収工作していいとこまでゆくのだが常に一步届かずで、それでも学年、クラスは常に二派に分かれる位のしぶとさは持っていたんじゃないか。面白かっただろうなと思う。今日は鈴木とどうケンカしてやろうとワクワクしながら、それが楽しみで欠席ナシ。何故か皆勤賞なんかもらったりして。しかし考えてみればガキの頃にそんな事があれば、お互いトラウマになっていて、今の付き合いは無かったわけだから、私は焼け出されて良かったのだろう。変な因念がある。東京のこの辺りには。

鈴木の論考の構築方法の根底には歩く思考があるのではないか。それがその論考に独特なりアルさと、広がりを持たらせている。歩く思考と言っても永井荷風の日和下駄とか、諸々の散歩的思索ではなくて、ある地点に向けてひたすら歩くというか、そのひたすら歩く事自体にも意味があるのだと言つような事。まだ上手に言えぬが多分凶星である。暗黒舞踏家の土方巽は舞踏とは日中路地から路地へ陽だまりの中を歩きに歩いた男が、夜突如その体験の淀みを形にし始めるものだと言っていたのを記憶しているが、

鈴木を考えるに土方を引くのはお門違いと思うのが普通なのだが、オツと、どっこい私の眼は節穴ではない。ジェントルマンを振舞わざるを得ない鈴木の背中には土方の言つようなデーモンがピツタと張り付いているのである。

まったく酒に弱くなって少し酔って帰宅して家内に怒られた。今日は叱られたり、怒られたりの一日であった。

一月二五日

午前中向ヶ丘遊園駅で待ち合わせ、近藤さん古木さんと森の学校の打ち合わせ。午後、予定変更して休む。634346会の方々には失礼した。